

令和 7 年度第 2 回 荒川区地域経済活性化及び観光プロモーション推進協議会
地域経済活性化に関する分科会
議事要旨(案)

(1) 概要

開催日時	令和 7 年 8 月 20 日(水) 午後 3 時 00 分から午後 5 時 00 分まで
開催場所	荒川区役所 5 階大会議室
出席者 (敬称略)	(分科会委員) 委員長 遠藤 智久 委員 竹前 友勝 委員 野城 菜帆 (区側出席者) 産業経済部長 小林 弘幸 産業振興課長 山下 英男 経営支援課長 中野 大志 就労振興課長 伊藤 大介 観光振興課長 渡部 雅人 シティプロモーション担当課長 鈴木 利枝子
欠席者	委員 鈴木あづさ
配付資料	・ 資料 1 産業活性化に向けた取組事例について

(2) 議事

議 題	「産業活性化に向けた取組について」 ・ 区内ものづくり技術の PR・活用に向けて ・ 企業同士の交流、スタートアップとの連携を図るには ・ 区内学校卒業生の区内企業就職に向けて
議事内容	
1. 事務局からの資料説明 【区内ものづくり技術の PR・活用に向けて】 【企業同士の交流、スタートアップとの連携を図るには】 【区内学校卒業生の区内企業就職に向けて】 これらのことについて、事例を交えながら事務局より説明がなされた。	

2. 意見交換（各委員の主な発言）

【区内ものづくり技術の PR・活用、企業同士の交流、スタートアップとの連携に関して】

- ・ものづくり技術の PR にあたり、区内製造業の実態を把握することは重要である。また、プロモーションのターゲットを設定することが必要である。
- ・区内ものづくり技術の PR・活用にあたり、オンライン上で区内企業の把握ができるよう、区で企業データベースの整備（得意分野のほか、小ロット可・3D データ対応可など対応可能サービス含む）を図ることが必要である。このような取組はスタートアップにとっても求める企業を見つけやすくなり、マッチングの促進にもつながることから重要である。
- ・オンラインでの部品発注等に関しては、多品種・小ロット・短納期等で既に大手企業が立ち上げているところであるが、より細かな仕様変更に対応してほしい場合も多くある。できれば、顔の見える地域の企業と少しの仕様変更など融通の利く形で発注できるのが理想である。
- ・日頃の事業にあたっては小さな困りごとが出てくる。単純な困りごとを地域コミュニティの中でフォローし合うことができれば、区内企業のノウハウにもなる。
- ・月に 1 回程度交流会を開催できるようなコミュニティスペース等の企業が集まれる居場所は、企業間の交流を促進し、新たなビジネスチャンスを生み出す可能性がある。また、居場所だけでは不十分で、そこにはコミュニティマネージャーの存在が必要である。コミュニティマネージャーが、積極的に情報提供やマッチングを行うことで、コミュニティの活性化に繋がる。過去の経験からも、コミュニティマネージャーが話しかけやすい方であれば各企業の課題や得意分野を把握しており有益なマッチングにもつながる。このような場を行政が提供し定期的に開催できることが望ましい。
- ・企業交流の実施にあたっては、定期的な勉強会等が考えられる。ある自治体の会員制勉強会の事例では、会員企業が主導権をもってテーマ決めを行っている事例が見受けられるが、進路を誤らないよう行政側も主体的に関わる必要がある。
- ・今後、企業等のネットワーク構築にあたっては、対面での交流以外に、オンライン上でのコミュニケーションとして公式 SNS の整備も必要である。また、ネットワークメンバーは区内だけに止まらず、近隣地域の企業・団体・大学等との連携も必要である。なお、メンバーについては、ただ情報を待つようなぶら下がりではなく自ら情報を発信・提供する姿勢が求められる。

【区内学校卒業生の区内企業就職に関して】

- ・ 区内にある都立工科高校や高専卒業生の区内企業への就職促進については、大手企業への就職が優先されるため大変厳しい状況であるが、在学中の交流は有益である。大手企業就職後に中小企業に転職するケースも見受けられており、交流経験が活かされる可能性もある。
- ・ 交流にあたっては、インターン以外にも在学中の研究開発で区内企業が連携するなどの形も考えられる。

(以上)